

かんたんおもちゃとカンボジアの子どもたち（3）

島田祥生

一昨年、昨年に続き、2月8日からの9日間、「カンボジア スタディーツアー」に参加してきました。内戦収束後も、政府の復興の手がいきわたらない、タイ国境に近い貧困地区の支援活動を行っている組織を、日本から支援しているグループ「かんぼれん：カンボジアの友と連携する会」が、毎年実情把握のため出向している活動です。参加9名の、賑やかなツアーになりました。

前々回、前回の報告書と合わせると、よりご理解いただけるかと思えます。

<https://tankenkobo.com/wp/2018/11/07/cambodia/>
<https://tankenkobo.com/wp/2019/02/07/cambodia2/>

前回までで、かんたんおもちゃが、子どもたちだけではなく、大人の方たちとの距離もぐっと縮める「魔力」があることが分かりました。

今回は、さらに一步踏み込んだ目標を持ちました。

- ・動かすのに、より工夫してもらいたい。
- ・組み立ての楽しさも味わってもらいたい。
- ・よりスキンシップがしたい。



プノンペンへ向かう機内での組み立て
彼女の手の良助かり

※ プノンペンの「障がいのある子どもの家」－彼らの感性・感覚は凄い－

ここでは、視覚、聴覚など身体に障害があり、貧しさゆえに親から見捨てられたりした子どもたち30人ほどが共同生活をしています。感謝と互助の気持ちをしっかり持ったすがすがしい子どもたちです。

子どもたちから「カンボジアの時代による衣装の変遷」というファッションショーで歓迎を受けました。メンバーで当地の愛唱歌「アラッピーヤ」を歌って返礼。

子どもたちも皆、楽しそうに、一緒に歌って、踊ってくれました。

かんたんおもちゃは、メンバーが用意した「とんでくカエル」、部品で用意した「厚紙のコマ」、点字を付けた「自在ブロックパズル」。

- ・とんでくカエルは、折り紙できていて、おしりを押すとはじけて飛んでいく、微妙な力加減が必要な代物。皆、すぐにコツを覚えて大騒ぎでした。
- ・厚紙のコマは、テーブルごとに、参加メンバーが組み立て方を教え、すぐ回るように。自分で組み立てて嬉しそうでした。メンバーとのコミュニケーションツールにもなったようです。視覚に難のある子も、一度触らせると、自分で回して楽しんでいました。
- ・自在ブロックパズルは、色に合わせて1～6の点字を付けました。一度触らせると、すぐ自力で色を揃えていました。すごい感覚です。



子どもの家の構内



「アラッピーヤ」を一緒に



想定外の作品！ 自在ブロックパズルを点字を頼りに 掌にコマを載せて かんたんおもちゃでコミュニケーション

※ ゴミ捨て場跡地の保育所完成

現地で14年間、住民の人々とのつながり、子どもたちやお母さんの自立、教育に取り組んでこられた、浅野美幸さんが拵えた保育所が出来上がりました。

昨年までの屋根だけの教室に比べるべくもない、立派な建物です。教室が年齢別に4~5、クメール語を学んでいる部屋もありました。

「糸釣りがざぐるま」「厚紙のコマ」「ストロートンボ」などをプレゼント時間が限られていたので、何種類かの組み立てキットを託しました。

後日、浅野さんからメールが届きました。『さて、いただいた手作りの玩具ですが、子どもたちに作ってもらいましたその時の写真を添付いたしました。』

子どもたちの喜ぶ姿を見せられないのがとても残念です。

とっても喜んでいましたよ。どうか皆さまにも宜しくお伝えください。

浅野 JLMMJ



新築なった保育所

去年までの教室



浅野さんからの写真



クメール語を学んでいた



礼儀正しい子どもたちに圧倒され



ストロートンボをプレゼント



住民のケアをする浅野さん

※ JSC の責任者ガビー神父との会食

(JSC: イエズス サービス カンボジア: 内戦終結後支援を続けている)

「かんぼれん」が支援しているのは、JSCのランチの「シソポン事務所」本部の責任者およびスタッフと、ものすごく広く深い、そして楽しい会話がありました。左が、責任者のガビー神父、真中は、障がい者を社会復帰させる事業の責任者、右は、新任のスタッフ。

今回は、「自在ブロックパズル」を。楽しい会話が途切れなかったのは、流石ですがガビー神父から、「私のデスクに、くるくるリングとフラッターリングが立ててあります。時々楽しんでいきます。」とのコメント。厳しい活動の、一時の息抜きになっているかと思うと、ものすごく嬉しくなりました。



ガビー神父らとの会食
傍らにブロックパズルを

※ 支援の現地、「シソポン」へ

11日の夕方、今回の主目的地である、カンボジア北西部の最貧困地区にある、JSCのシソポン事務所に到着。遅い時間でしたが、車椅子を支援している家族のもとに。ご本人が、なかなか出てこない。しばらくして現れた彼女は・・・。



シソポン事務所の所長からプレゼント

オメカシに時間を貰ったとのこと。来てくれたことが嬉しかったようで、満面の笑み。事務所の所長から、ストロートンボを本人にもプレゼント。JSCスタッフとの、いいリレーションシップが出来上がっているようだ。



JSCのシソポン事務所

※ 通学用の自転車を支援している小学校・中学校へ

Toul Prasant School 訪問。児童数が180名とのことで、用意がなく、全員へのプレゼントを諦める。先生方にフラッターリングを、自転車の成績優秀な子等にはくるくるリングを、ツアーのメンバーの娘から渡してもらおう。彼女は、児童たちと何やら話している。クメール語で？

先生方はおもちゃを、早速児童の手元に。みんなで楽しんでもらえそうで、ほっとしました。教頭先生は、フラッターリングに興味津々でした。



先生はおもちゃを手に 教頭先生は興味津々 訪問した小学校



くるくるリングを手渡す

Toulpongo Secondary School

ここの校舎は、日本からの援助で出来たものとのこと。ここも、十分な用意がなく、先生方にフラッターリングを、自転車の生徒にはくるくるリングをプレゼント。加えて、「科学の心をくすぐってほしい」と思い、合わせ鏡と単品の鏡を2枚提供。組み合わせ鏡の不思議さをみんなで体験してほしい。

先生は、早速、フラッターリングを生徒に渡していた。みんなでシェアする心根が嬉しかった。在校生みんなにプレゼントしたかったが……。今回は、生徒みんなに、組み立ての楽しさを味わってもらいたいと思った。



校舎前にて



自転車の提供を受けた生徒達



木陰で、先生と生徒が

※ 悪路を1時間 Bossthom 村へ

シソポンからの国道をそれ、悪路を1時間、長い間いろいろな支援を続けているBossthom 村に着いた。

家の提供、家の修理、SRI（稲集約栽培法）の普及活動、児童への自転車提供、などなど、村全体と相談のうえ、支援内容、支援先を決めているとのこと。支援先の家族は皆、事務所スタッフと打ち解けていて明るい。硬い信頼感で結ばれていると見て取れた。

サプライズがあった。かんぼれんが、このBossthom 村から感謝状を受けた。右の写真は、村長さんから感謝状を受け取る、リーダーのボネット神父。SRIで採れたご飯の昼食をご馳走になった。甘くいい香りが口の中に広がった。

さて、この村での、かんたんおもちゃの出番は？ 集まっては来るが退屈そうな子どもたち。ストロートンボや、はばたくインコを渡すと、眼を輝かせて遊びだした。大人たちは、ますます話に入ったようで、いい時間が持てたようだ。間接的に、コミュニケーションのお手伝いできたかなと思う。



メンバーの娘が事務所の車に



村長さんから感謝状を受けとる



支援を受けた家族と歓談



子どもたちが集まってくる



支援家族、近く子ども達と

※ Bossthom 村の小学校へ

村人総出で建てた校舎が、大雨の洪水で使えなくなり、ようやく出来上がった新校舎。児童数は350人ほどだが、先生が足りず2部授業。この小学校の校長先生は、農業改革のリーダーを引き受けるなど、村中から尊敬されている、腰の低い方。3回続けての訪問が実現した。

今回は、ブンブンゴマを全員に。スタッフが教えるまでもなく、あっという間に回していた。目がとてもきれいなのが印象的だった。校長先生に、件の鏡セットと、かんたんおもちゃ組み立てキット3種類計350人分を委ねる。組み立ての現場に居たかったが、今回は難しかった。次回、何とか実現させてほしいと勝手な願望が芽生えた。教頭先生が、早速鏡2枚で「実験」をしていた。前回も、フラッターリングに、子ども以上に目を輝かせていた方。カガクの芽を育ててくれそうな気がする。



新校舎 緑に囲まれたいい環境



スタッフよりうまく回す子も



校長先生に組み立て指導を願う



校長先生を囲んで事務所スタッフと



みんな楽しそうよかった

※ Pongro 村へ

JSC シソボン事務所の顧問を務めている、シソボン教会のグレッグ神父が支援している村に行く。

そこには、神父が立てた Community Learning House があり、子どもたちが集まってくる。先生は、フィリピンからのシスターだが、1か月ほど休暇。16歳の男の子が代わりを務めていた。

子どもたちは午後からとのことで、コマの組み立てキットを託す。前は、はばたくインコにデコしてもらったが、組み立てを見たかった。



Community Learning House

右の写真の左端がグレッグ神父。その隣の2人は、17歳と18歳。男の子ともども大変「いい顔」をしている。このくらいの年からいろいろな経験をしていて、未頼もしい。今やりたいことと、将来の夢を語ってくれた。



10代の若者たちと歓談

※ シソボン事務所のスタッフとお別れ

シソボンの4日間が、あっという間に過ぎ、スタッフとのフェアウェルパーティー。

スタッフには、「自在ブロックパズル」を、事務所の活動の tool として、何種類かのかんたんおもちゃキットをプレゼントした。

鳥取県ほどの広さを5名でカバーしていることに敬意を表したい。



お別れの会食でも弄っている

※ シエムレアプの JSC 事務所へ

シエムレアプ事務所の責任者スレイモンさん達から、
ここでのプロジェクトの説明を受ける。
シソポンと同じような支援もしているが、当地ならではの課題も。
スレイモンさんのお孫さん9人に「くるくるリング」を、事務所の
スタッフに「カリカリトンポ」をプレゼント。

小さな子がいたので、
くるくるリングを。
最初は戸惑っていたが、
すぐ回せるようになった。



クルクルンぐで遊ぶ



シエムレアプ JSC の敷地



ここの宿泊施設にお世話になり、翌日夜半、帰国の途についた。 JSC シエムレアプ事務所のメンバーと

※ 今回の纏めです

—かんたんおもちゃは、またまた想像を超えたもの—

今回の目標だった、

- 動かすのに、より工夫してもらいたい。
- 組み立ての楽しさも味わってもらいたい。
- よりスキンシップがしたい。

は、私が考えるまでもなく、当地の子どもたちのみならず、大人まで実現してくれました。
特に、子どもたちの好奇心、感性、感覚には、感服し、それに接することができ、大変楽し時を
過ごせました。

同行のメンバーや、シソポン事務所のスタッフのみなさんのお蔭と、感謝しています。

※ 次回の宿題です

—ますますやりたいことが広がっています—

- 今までのアイテムをさらに充実させたい。
- 組み立てキットの種類を増やしたい。
- 鏡セットに続く「実験機材」を持って行きたい。

今回は、ホテル工房での「強制労働」がないよう、部品の持ち込み形態を工夫しました。
ホテルでの組み立てが、ちょっと時間切れになり、キットで提供せざるを得ないこともありましたが、
それが喜ばれるなど、嬉しい誤算もありました。用意したものが殆どはけて、ほっとしています。

以上